・通常より株間が広い場合

（畝幅100cm、株間35cm、条間45cm、２条栽培）

栽培方法は、通常のダイコンを栽培するのと同じです。播種後60日で根長30cm、重さ１.５kgを超えはじめます。さらに90日以上おくと、２.５kgを超えてきます。

②サイズ別で収穫するために

栽植基準を変更しても、基本的なことは変わりませんのでここでまとめて説明します。

・生育日数

小さいサイズで収穫する場合でも、通常サイズで収穫する場合でも、生育日数は中間地９月上旬まきで60日前後かかります。**小さいからといって早く収穫できるわけではありません。**

・播種粒数と間引き

１カ所に３～４粒播種して、本葉５～６枚目までで１本に間引きしてください。間引きの回数は２回に分けるのがよいでしょう。

株間・条間が狭い場合は、間引きのタイミングを少し早めるのがおすすめです。

・ベタがけ栽培

ベタがけは冬季の寒さによる葉の傷みを防いだり、春まきでは保温効果で抽苔（ちゅうだい）を回避するのに効果的な資材です。「三太郎」の場合、秋まきで割れにくくス入りが遅い特長を生かして圃場に長く置く場合、冬季にはぜひ、不織布をベタがけしてください。葉やダイコンの肩の部分の傷みを軽減できます。

・トンネルの効果

春まきでビニールなどの被覆資材を使用してトンネル栽培を行う場合、外すタイミングを間違うと、葉が大きくなりすぎて根の肥大が悪くなります。「三太郎」は抽苔が遅いタイプなので、中間地で栽培する場合、10月下旬～２月まではトンネル（またはハウス）栽培し、３月からはベタがけ栽培で十分です。

・土壌による違い

砂質土壌と普通の土質との生育の違いも比較しました。一番大きな違いは水もちの関係です。一般に砂地は水はけがよく、水もちが悪いとされています。特に温度の高い時期やトンネル栽培の場合は乾きやすいので、潅水が必要な場合もあります。生育初期の水管理には気をつけてください。一方、土の圃場での水はけについては注意が必要です。水はけが悪い場合は畝を高くしてください。





←株間20cm・条間20cm・３条植え、播種から29日後（左）、62日後（右）。葉が大きくなりすぎないように肥培管理の調整がポイント。



↑播種から57日後。同じ生育日数でも栽植密度を変えれば作りたい大きさに。





←播種後97日が経過（株間25cm・条間38cm・２条植え）、重さ２kg・根長38cmを超えるサイズに肥大しても、中心の断面からはス入りが見られない。

「三太郎」栽培試験表

	畝幅	株間	条間	条数	播種後日数（９月上旬播種）	長さ	重さ	備考（栽培の注意）
通常栽培	100cm	25cm	45cm	2条	60日	30cm	1.3kg程度	
	100cm	25cm	45cm	2条	90日	33cm（春まき35cm）	2kg程度	
株間を狭く	100cm	20cm	20cm	3条	60日	30cm以下	1kg程度	栽植密度の狭めすぎに注意、初期の肥料過多注意
	100cm以上	20cm	20cm	4条	60日	30cm以下	0.8kg程度	
株間を広く	100cm	35cm	45cm	2条	60日	30cm	1.5kg以上	
	100cm	35cm	45cm	2条	90日	35cm（春まき37cm）	2.5kg以上	

肉質よしで人気の「三太郎」ダイコン！

～栽植密度で大きさ変幻自在、あなたが決めるサイズと価格～



タキイ研究農場
藤田　守久

おかげさまで昨年新発表した短形ダイコン「三太郎」は、直売所でも人気のヒット商品となっています。肉質のよさが人気の要因ですが、家庭菜園では春も秋もまけるということでたいへん重宝いただいています。

直売所に出荷される方が増えるにつれ、「三太郎」の大きな特長の一つ「お好みのサイズで収穫可能」について詳しく教えてほしいという声が多く寄せられています。今回、異なった栽植基準での栽培について説明し、地域や使い勝手にあわせた出荷をいただけるよう参考に供したいと思います。



1「三太郎」の特長

サイズ別栽植基準について、詳しく説明する前に、もう一度「三太郎」ダイコンの特長をおさらいしておきましょう。

①サイズはミニ以上、普通ダイコン未満。

「三太郎」をミニダイコン（根長15～20cm）だと思っている方が多いのですがミニではありません。逆に、どうして長くならないのかという質問も寄せられましたが、「三太郎」は通常のダイコンより短めの短形ダイコンと説明しています。標準根長は20～30cmです。

②秋と春にまけて播種期幅が広い。

③場所を選ばず栽培容易。

④おいしさが格別。特に煮ダイコンはとても好評。

⑤好みのサイズで収穫可能（後述）。

⑥割れにくく、ス入りが遅いので長く圃場に置け、週末ファーマーでも安心して収穫できる。

2「三太郎」栽培のポイント

①サイズ別栽植基準

・通常栽培の場合

（畝幅100cm、株間25cm、条間45cm、２条栽培）

通常の栽培ですので、一般サイズのダイコンと同じ栽培をします。９月上旬まきで60日後に、根長30cm程度、重さ1.3kg程度に仕上がります。さらに90日以上おくと２kgを超えるジャンボサイズに肥大します。

・通常より株間が狭い場合

（畝幅100cm、株間20cm、条間20cm、３条栽培）

10ａ当たり１万5,000本が目安になります。９月上旬まきで60日後に、根長は通常栽培よりやや短め、重さは１kg程度になります。畝幅をもう少し広げて、同じ株間・条間で４条栽培した場合、重さは800ｇ程度になりますが、生育日数は変わりません。

この場合の栽培ポイントは、生育初期の肥培管理です。栽植密度が狭いので、温度が高い時期の栽培やトンネル栽培の場合、生育初期に肥料が多すぎると葉が大きくなり、根の肥大やそろいに影響が出るため、通常栽培より元肥を少なくして追肥を行うか、温度が高い時期の栽培を避けるようにしてください。またトンネル栽培では、生育初期にトンネル内の温度が35℃を超えないような温度管理をしてください。

なお、これ以上栽植密度を狭めると、尻の肉付きが悪くなったり、生育のそろいが悪くなる可能性があるので避けた方が賢明です。